

様式第二号の八（第八条の四の五関係）

（第1面）

産業廃棄物処理計画書	
令和 7 年 4 月 30 日	
岩手県知事 達増 拓也 殿	
提出者	
住 所 岩手県一関市藤沢町黄海字上中山89	
氏 名 株式会社アーク 代表取締役 橋本 晋栄 (法人にあつては、名称及び代表者の氏名)	
電話番号 0191-63-5377	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	株式会社アーク
事業場の所在地	岩手県一関市藤沢町黄海字上中山89
計画期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	01:農業（畜産業 養豚業）
② 事業の規模	母豚数5,000頭 年間出荷頭数130,000頭
③ 従業員数	156名
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	豚糞、食品残渣、汚泥→藤沢有機肥料センターにて有機肥料として製品化

（日本産業規格 A列4番）



産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

株式会社アーク 廃棄物管理責任者

↓

株式会社アーク 産業廃棄物運搬者

↓

藤沢有機肥料センター 産業廃棄物担当者

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙参照	
	排出量	10,380.55 t	t
	（これまでに実施した取組） ・藤沢有機肥料センターにて有機肥料として製品化。 ※）第1回「令和6年度国内肥料資源利用拡大アワード」 アークグループの畜種と耕種が連携し、有機肥料を要に資源循環した消費者と繋がる六次産業化の取組みが「農林水産省 畜産局長賞」を受賞		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙参照	
	排出量	10,000.00 t	t
	（今後実施する予定の取組） ・藤沢有機肥料センターにおける有機肥料としての製品化を継続する。 ・藤沢有機肥料センターにて、「土のめぐみ」、「若葉のめぐみ」に加え、新商品の有機培養土「いのちの恵み」を発売開始する。		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	（分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組）
②計画	（今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組）

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（令和 6 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙参照	
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙参照	
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（令和 6 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙参照	
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙参照	
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（令和 6 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙参照	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙参照	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（令和 6 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙参照	
	全処理委託量	10,380.55 t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	10,380.55 t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
	・藤沢有機肥料センターにて有機肥料として製品化。 ※) 第1回「令和6年度国内肥料資源利用拡大アワード」 アークグループの畜種と耕種が連携し、有機肥料を要に資源循環した消費者と繋がる六次産業化の取組みが「農林水産省 畜産局長賞」を受賞		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙参照	
	全処理委託量	10,000.00 t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	10,000.00 t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
	(今後実施する予定の取組) ・藤沢有機肥料センターにおける有機肥料としての製品化を継続する。 ・藤沢有機肥料センターにて、「土のめぐみ」、「若葉のめぐみ」に加え、新商品の有機培養土「いのちの恵み」を発売開始する。		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

(産業廃棄物の種類: 全体)

不要物等発生量

有償物量

排出量

数値は、
上段: 前年度実績値

項目	前年度実績値	今年度目標値
①排出量	10,380.55	10,000.00
②+⑧自ら再生利用を行った量		
⑤自ら熱回収を行った量		
⑦自ら中間処理により減量した量		
③+⑨自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量		
⑩全処理委託量	10,380.55	10,000.00
⑪優良認定処理業者への処理委託量		
⑫再生利用業者への処理委託量	10,380.55	10,000.00
⑬熱回収認定業者への処理委託量		
⑭熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量		

自ら直接
再生利用する量

②

自ら直接埋立処分又は
海洋投入処分する量

③

自ら中間処理した後
再生利用する量

⑧

自ら中間処理した後
自ら埋立処分又は
海洋投入処分する量

⑨

⑩のうち再生利用
業者への処理委託量

⑫

⑩のうち熱回収認定
業者への処理委託量

⑬

⑩のうち熱回収認定
業者以外の
熱回収を行う業者
への処理委託量

⑭

自ら中間処理
する量

④

自ら中間処理した
後の残さ

⑥

④のうち熱回収
を行う量

⑤

自ら中間処理によ
り減量した量

⑦

直接及び自ら
中間処理した後の
委託処理量

⑩

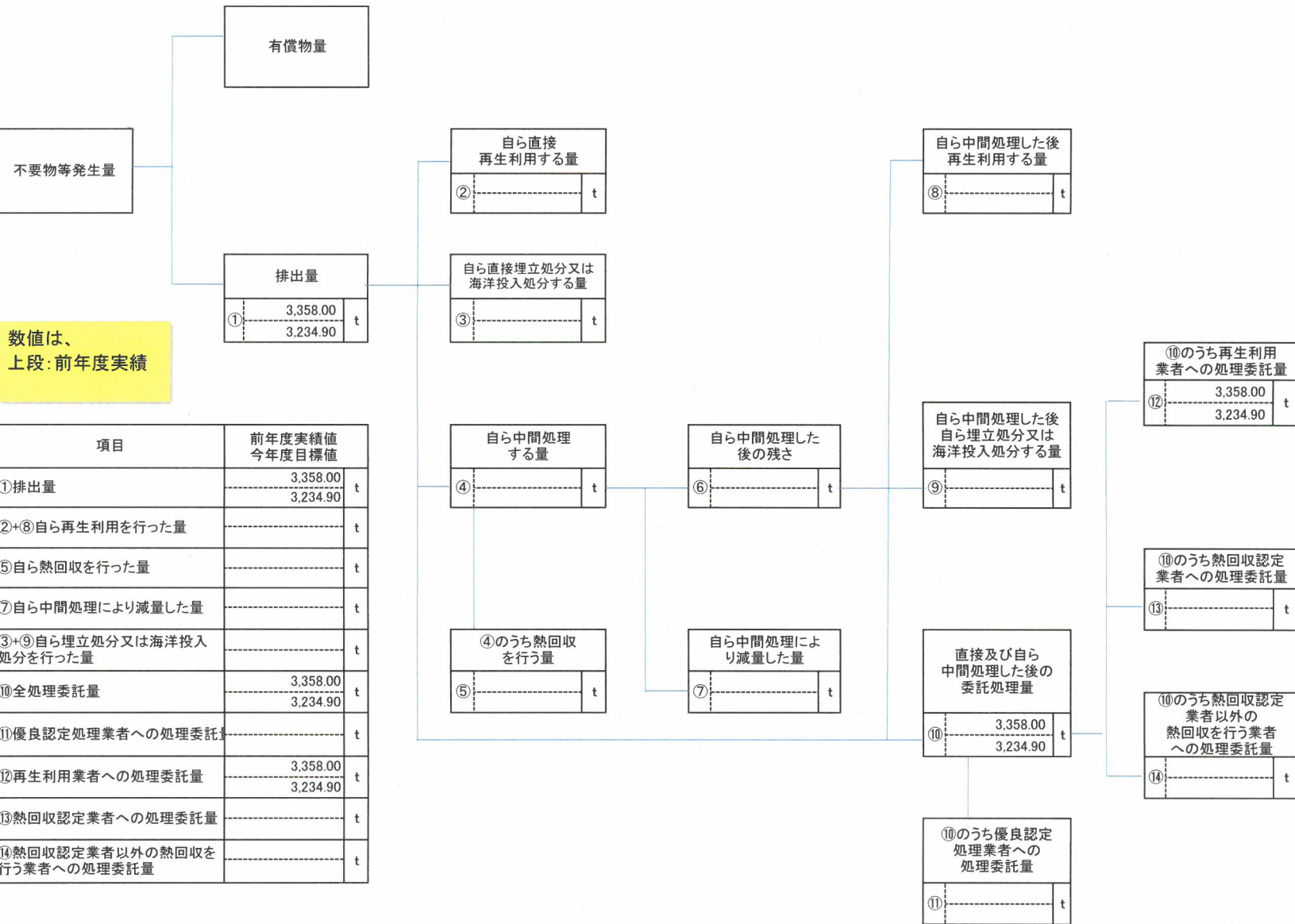
⑩のうち優良認定
処理業者への
処理委託量

⑪

(産業廃棄物の種類

動物のふん尿

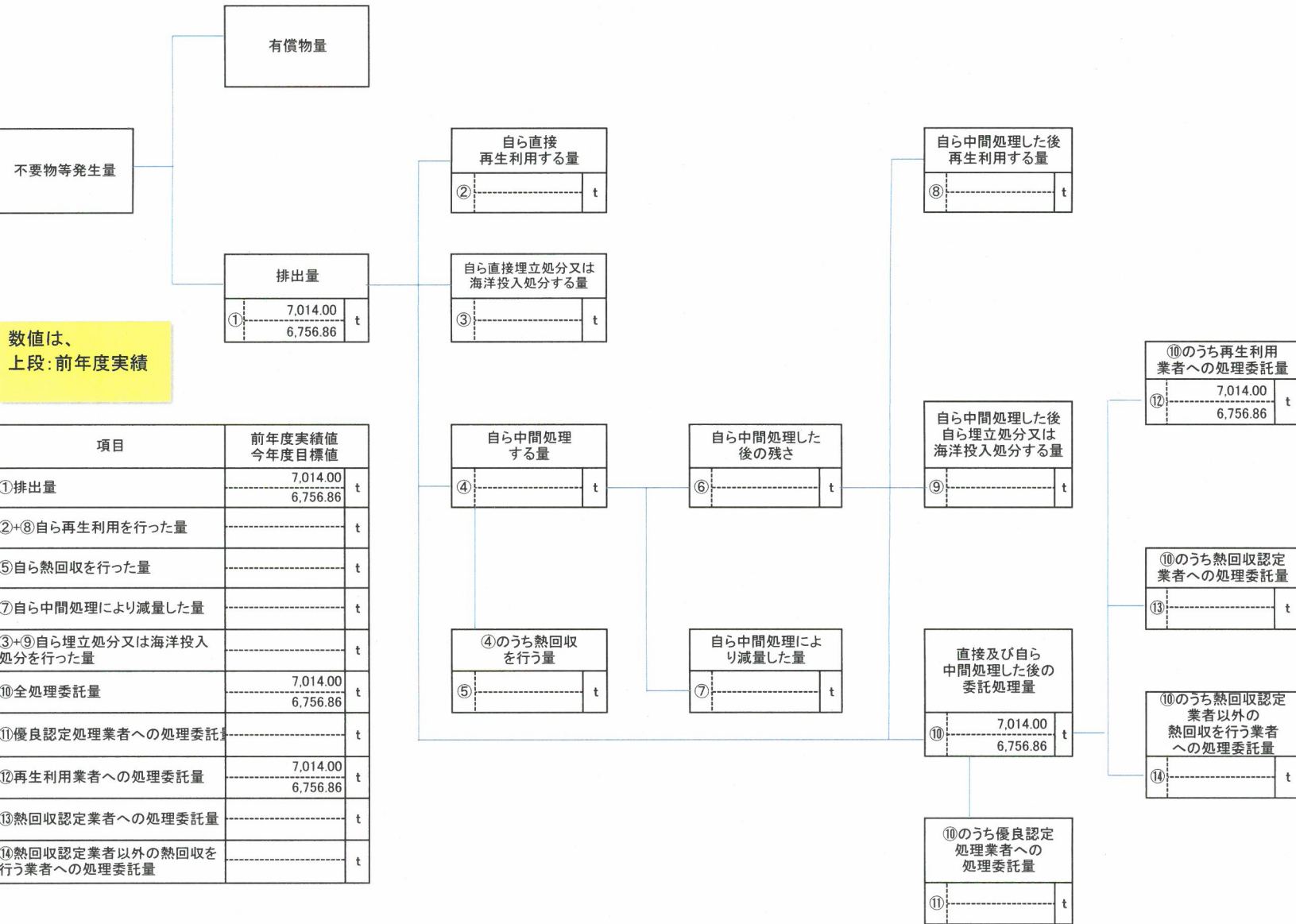
)



(産業廃棄物の種類:

汚泥

)



(産業廃棄物の種類: 動植物性残渣)

